

上津屋のすこし南の堤防 用水は「古川」を経て、かつて 月の「八丁樋普請木材出方仕様 沿いに、「八丁」というと は宇治市の伊勢田、安田、久御 目録」という文書が、現在上津 ころがあります。ここに、 山町の市田、佐古一帯三百町歩 屋区有文書として残っています。

木津川から灌漑用水をとり (三〇〇×
いれる「八丁樋」という用 クタール)
水路があります。 の水田をうる

木津川の川床が下がった るおしてい
ため(戦後三十年間にも三 ました。
メートル程下がっていると そのため、
きました)昭和三十七年 用水井路敷
以降は取水が出来なくなり 代として、
古川に注ぐ長さ「百六十九 年貢米三石
間(約三〇〇メートル)」 八斗を市田
の八丁樋は、現在水はなく 佐古、安田
草が生い茂っています。 伊勢田の各
この用水路はいつ開削さ 村より、上
れたかを示す史料はありま 津屋村へ納

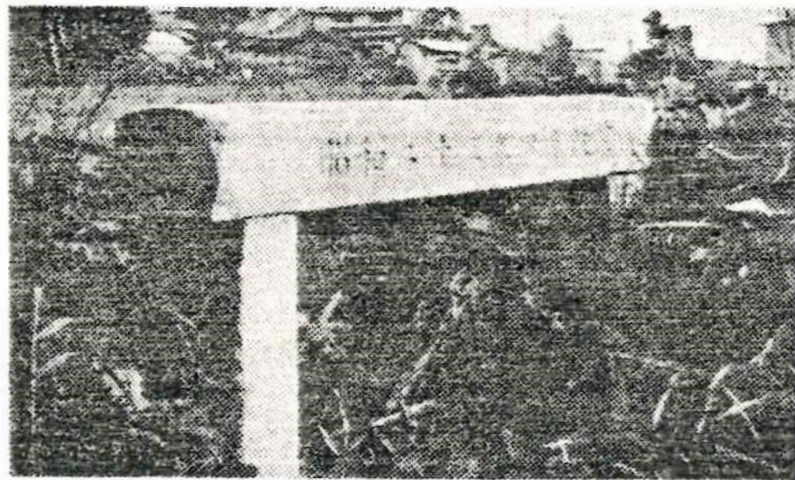
せんが、江戸時代初めにつ めてきましたし、樋の修理など
くられたとされています。 も、その費用を四ヶ村でも負担
八丁樋は上津屋の用水路で したようであります。

寛政四年(一七九二年)十二

「約定書一札」を入れています

この夏の上津屋区有文書 調査の一コマの報告です。

市史の窓 No.24



八丁樋

はっ ちよう ひ

四ヶ村用水樋井路に借用い たし「前記のように年貢米 を納めてきたが、今後も双 方示談のうえで納めると書 かれていきます。

上津屋の自治会長さんか ら聞いたのですが、現在も 何がしかのお金の上津屋に 年々支払われている由です が、そういう歴史があるか らです。

周辺が宅地化されて、今 は使われていない八丁樋を 下水路として整備してほし いという要請が、地域住民 から出されていますが、上 津屋単独では返事はできな いのですと、自治会長さん は言っておられました。